

# はじめに

リハビリテーション医療の専門職が患者様、利用者様のために“結果を出す”には優先順位を考慮した適切な検査・測定とその結果に基づく評価は実施して当然であり、不可欠なものです。一方で、臨床で働きはじめたばかりの方が難しく感じる部分かもしれません。実際に、羊土社が行ったりハビリテーション医療の専門職を対象にしたアンケートでは、「限られた時間で何を検査・測定し評価すべきかわからない」「検査・測定の結果をどう解釈し治療に活かせばよいかわからない」などの声が寄せられていました。このような悩みを抱える方々のために、まず行うべき「must（マスト）な検査・測定」と、その結果を解釈した次のステップとして行ったほうが良い「better（ベター）な検査・測定」を解説するというコンセプトのもと、本書が企画されました。若手のリハビリテーション専門職が“どの検査・測定を選択するべきか”迷った際に、本書の知見を現場ですぐに実践でき、かつプラスアルファの考え方も身につくような書籍を目指したいとの強い思いを羊土社より頂き編集をお受けしました。

共同編集は、臨床家、研究・教育者として私が心から尊敬している古谷英孝先生にお願いをしました。そして、執筆は、実際に臨床で活動していることはもちろん、研究や教育の第一線で活躍しているエキスパートにご依頼しました。紙面に加えて執筆者一覧を見て頂ければ本書の知見がいかに信頼できるものであるかご理解頂けるかと思います。

本書の特徴としては以下があげられます。

- ・若手のリハビリテーション医療専門職が臨床で出会う代表的な疾患に対し、「これだけは行うべき」というマストな検査・測定と、それだけでは判断しきれない部分を補うベターな検査・測定を列挙している。
- ・「なぜその検査・測定を行うのか」「その結果をどう解釈すればよいのか」という評価の部分に重点がおかれており、治療方針の決定に役立つ。
- ・フローチャートや写真、解剖図などを交えた、視覚的にわかりやすい解説。

本書が、読者の皆様の明日からの臨床に役立ち、ひいては患者様、利用者様の症状・機能改善やライフパフォーマンス向上につながることを編者として願っております。最後に、貴重な執筆・編集の機会を与えていただいた鈴木様、庄子様、寺山様をはじめとする羊土社の関係者の皆様と、ともに編集を担って頂いた親愛なる古谷英孝先生に改めて感謝を申し上げます。

2025年9月

編者を代表して  
相澤純也